

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2018.01.No245

1月号

目次

新しい年を迎え	1
ヘリテージ講習会終了報告	2
道士会の動き	4
Coffee Break	5
青年・女性の怒 [青年委員会]	6
information	8

URL <http://www.h-ab.com/>



新しい年を迎え

一般社団法人北海道建築士会 会長 高野 壽世

明けましておめでとうございます。皆様には、ご家族の方々とご一緒に、清々しい新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年2月3日、改正宅建業法に基づく告示が公布され、既存住宅の取引の際に建物の状況調査をする技術者は、所定の講習を修了した建築士と定められました。この既存住宅状況調査技術者講習につきましては、多くの建築士の皆様が受講し、**既存住宅状況調査技術者**として登録されたところであります。改正宅建業法は、今年の4月1日から施行されますので、既存住宅状況調査技術者の皆様には、既存住宅の取引に不都合が生じないようご協力のほどよろしくお願いいたします。そして、そのことの積み重ねにより、この業務が建築士の新たな専門領域として、しっかりと定着することを願っているところであります。

昨年の全道大会後志大会は、外国からの観光客の増加や不動産投資など、グローバル化の波に直面するニセコエリアを舞台に開催され、ローカルな視点で、地域の文化や歴史、人々の暮らしを考える絶好の機会となりました。会場が分散するなど、後志支部の皆様には大変なご苦勞をおかけいたしました。あらためまして感謝申し上げます。**今年の全道大会**は「未来へつなぐ 天塩の流れ 人と大地の躍動」をテーマに士別支部が準備を進めております。昨年の後志支部と同様に、士別支部におきましても初めての全道大会となります。是非とも多くの皆様が足を運んでくださいますようお願いいたします。

昨年は、特筆すべきことが二点ありました。

一点目は、**専攻建築士の活用**であります。本会が、「努力する建築士の証」として推進しております建築士会CPDは、開発局、北海道、札幌市をはじめ全国42の県、40の市や町において、総合評価落札方式や設計プロポーザルで活用されておりますが、昨年は、旭川市と函館市の設計プロポーザルにおきま

しても採用になりました。また、専攻建築士につきましては、北海道、札幌市に続いて旭川市、函館市の設計プロポーザルにおいて、技術提案書の中にその記載が求められるようになりました。今後ますます高度化、複雑化する建築技術に対応する専門性、そして経験と実績を持つ専攻建築士が、建築士会CPDと同様に広く活用されるよう期待しているところです。

二点目は、**地域完結型の応急危険度判定業務の運用**であります。これは、東日本大震災の際、支部が地元の避難施設の応急危険度判定をいち早く実施した事例に倣ったもので、本会では、まずその前提となる自治体と支部との協定書のモデルを制定し、各支部において活用をお願いしたところであります。平成27年、恵庭支部と恵庭市、平成28年には札幌支部と札幌市が、そして、昨年は北空知支部が深川市、幌加内町、秩父別町、雨竜町、沼田町、妹背牛町、北竜町とそれぞれ協定を結びました。今年も、多くの支部が、地域の震災時の対応について、行政と協議に入っていただければと思っております。

いよいよ来年は、**第62回全国大会北海道大会**の開催の年であります。その骨子となる大会テーマにつきましては、昨年、会誌を通して公募し、皆様から様々な視点で、多数の提案をいただきました。全国大会北海道大会実行委員会では、それらの提案に基づき大会テーマ(案)を策定し、その後、昨年9月の本会理事会の審議を経て、12月の日本建築士会連合会理事会の承認を得たところであります。決定をした大会テーマ等につきましては、会誌今月号の掲載記事においてご覧いただけますのでよろしくお願い申し上げます。

年頭にあたり、本年も皆様のお力添えを重ねてお願い申し上げますとともに、皆様のますますのご健勝とご多幸を祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

平成29年ヘリテージ・マネジメント育成講座修了

ヘリテージマネジメント特別委員会委員長 関川 修司（北広島支部）



平成29年の北海道ヘリテージ・マネジメント専門職育成講座は、11月25日の登録式で、4年目を終えた。

全道各地に遺る地域遺産を、登録有形文化財とし、保全することでまちづくりを手伝い、各地の士会会員の職域拡大も狙いつつ、地域遺産の掘り起こしも行ってきた。文化庁の助成を受けての事業である。

事業の始まりには北海道らしさを加えた。つまり、受講生を他府県のように建築士会員（ヘリテージマネージャー HM）に限らず、建築士以外のヘリテージコーディネーター（HC）にも拡大し、事業主体も、NPO法人歴史的な地域資産研究機構、（一社）北海道文化財保護協会との3者とした。

初年38名、2年目51名、3年目26名、今年は20名、今年で130名を超えるHM、HCが誕生した。（全国では、4千名を超える）

講座時間は、HMが60時間と決められている（HCは受講30時間）。これを13日間で行い、受講生がグループで、「私が見付けた文化財」を調査し、講座の終わりにその発表をおこなう。26年には調査建築物5件の発表があり、その1件が、29年の全道後志大会B分科会見学会場のニセコデンポン工場である。更にこの年度の受講生の尽力で、帯広市・双葉幼稚園が重要文化財となった。27年は6件の調査があり、このうち函館班調査のYWCAの建物が登録文化財となった。28年は5件、29年は4件の建築物が調査された。

平成27年からは、有形の地域資産・建築物だけでなく、無形地域遺産・太子講調査も始め「中間報告『北海道の太子講』」として纏めた。太子講は、今まで調査されていなかっただけに、何処の町で行われているかは、大いに建築士会員の力を借りた。「講」には人が集まる、集まる建築物は「太子堂」「聖徳神社」である。50年以上も前の建築物を、太子講の人たちが守り続けている。日本に仏教を広めた方が「聖徳太子」。寺院を建て、荘厳するためには木工、土工、石工、瓦、钣金、鋳、生花、製紙、理美容などの諸職が必要である。聖徳太子を祀り、職業に感謝し、集うのが太子講である。全道の太子講関係施設を求めて次年度も調査に歩く。

見過ごしていた地域資産を見直し、まちづくりに活かすのが本講座である。講義内容は、古建築物を扱うというノスタルジックな講義では無く、インスペクションの必要性、空き家対策問題、建築基準法第3条適用除外など、実務に役立たせ、その手法の

講義も行っている。

地域を元気づける建築士の皆様、参加下さい。

以下に講座受講の皆さんが関わった建築物と、太子堂の写真を紹介します。（一部です）



H26 改修前のデンポン工場（上）改修後（下）
平成29年全道大会B分科会見学会場となった。



H26 小樽市・銭函Y邸 元漁業親方の自宅
調査で地名にゆかりがある建物をみつけた。



H27 岩見沢市 そらち炭鉱の記憶マネジメントセンター
（撮影 H27 C班）



H28 札幌市・北海道神(仮称)東北祭典区山車蔵



H28 札幌市・複合店舗KAKUイマジネーション
(撮影 H28 札幌B班)



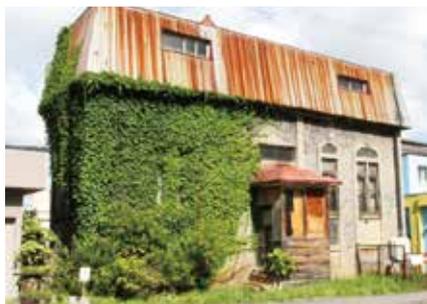
H28 函館市・T邸
(撮影 H28 函館班)



H29 札幌市・行啓通旧石谷商店
(撮影 H29 A班)



H29 美唄市・H邸
(撮影 H29 C班)



H29 小樽市・旧丸ヨ石橋別邸
(撮影 H29 D班)



深川市・澄心寺太子堂 重層の太子堂は道内唯一

深川市の秋祭り。壮麗な神輿が二基巡行し、御旅所(?)と境内で無形文化財の舞踊も披露される。



当別町・当別神社境内社聖徳神社

小さな神社であるが、雨模様の中、諸職の方々が集まり、神主の祝詞を聞き祭式が行われる。

表彰関係

平成29年12月8日開催の第60回建築士会全国大会(京都大会)、日本建築士会連合会会長表彰者表彰式が行われ、賞状が授与されました。

永年にわたり、本会の役員として、会の発展に尽力いただき表彰されました皆様をご紹介します。

【(公社)日本建築士会連合会会長表彰者】(敬称略)

支部名	氏名
札幌支部	牛田 健一
札幌支部	長谷川 敏文
札幌支部	安達 あけみ
函館支部	菊地 要一
後志支部	北澤 暉義

(一社)北海道建築士会 2018 年間行事予定

1月	12日～31日	第51回建築基準法講習会
2月	1日～27日	第51回建築基準法講習会
3月	12日	第1回理事会
	20日	第2回理事会
	31日	定時総会 全道青年委員会連絡会議
4月	予定	二級木造建築士試験受付
5月	予定	一級建築士試験受付
	予定	青年建築士の集い
	18日	第3回理事会
6月	2日	支部長・事務局長合同会議
	予定	青年委員会「建築士のお仕事体験イベント」
7月	予定	二級建築士学科試験
	予定	一級木造建築士学科試験
8月	予定	二級建築士学科試験合格者発表
9月	3日	第4回理事会
	予定	一級木造建築士建築士学科試験合格発表
	予定	二級建築士設計製図試験
10月	6日	第43回全道大会(士別大会)
	予定	一級木造建築士設計製図試験
12月	26日	第61回建築士全国大会(埼玉大会)
	予定	7日 建築士試験設計製図試験合格者発表 第5回理事会

2019年第62回建築士会全国大会 「北海道大会」の“大会テーマ”が 決定しました!!

—全国大会実行委員会事務局—

【大会テーマ】

リ クロス みらい
「Re +」～明日のまちに輝きを～

2019年に第62回建築士会全国大会「北海道大会」が日本建築士会連合会主催、北海道建築士会主管により函館市で開催されます。

- ・大会日程 2019年9月21日(土)
- ・開催場所 函館アリーナ
函館市湯川町1丁目32番2号

全国大会のテーマは、建築士会並びに建築士の活動実績や地域貢献活動の実績などをもとに、建築士にとどまらず地域住民等へのアピールや、開催地建築士会の地域・文化・歴史と地域活動の成果を発信するため、「ビジョンと具体性」を明確にする「言葉・文章」で表現することを基本としています。北海道大会のテーマは、本会会員の皆様を対象に平成28年12月から平成29年2月までを応募期間として募集を行い、18件のご応募をいただきました。その後、全国大会実行委員会で検討を重ね、理事会にて本会としてのテーマを決定し、先般、建築士会連合会において承認されましたので、発表いたします。「Re +」は、「再び・更に・何かを加える」だけではなく「未来に交錯、融合・発展など」、様々なことが「クロス」していくということで、その趣旨は次のとおりとなっています。今後、このテーマをもとに大会開催に向けて準備を進めてまいります。

【テーマの趣旨】

日本の市町村の人口は、近年、減少の一途をたどっており、空き家やシャッター商店街といった現象は、地域の活力低下と景観の崩壊等の要因となり、北海道にとどまらず全国共通の課題となっています。

このような時代背景や少子高齢社会の中、私たち建築士はこれからの“まち”や“地域”をどのように再生していくべきなのでしょうか。

北と南、地方と都市圏、日本と外国、様々な文化や歴史が交錯するなか、それぞれを尊重し、ときには複雑に絡んだ事象を紐解き、組み直しながら、それらを通じて輝きのある未来の創造へ絶えず想いを巡らせていくべきではないでしょうか。

歴史的建造物の老朽化も進み、「まちの再生」だけでなく「建物の再生・利活用」も課題となっている函館で、開拓時から育まれたフロンティアスピリットのもと、新しい文化や技術を受け入れて来た交錯の歴史を踏まえ、文化・歴史を融合、昇華して建築士ならではの「再生」から「創生」へと続く、輝く未来への物語を考えてみたいと思います。

第8回 高校生の「建築甲子園」道予選

(公社)日本建築士会連合会主催の「建築甲子園」は、今年で8回目の開催になります。審査会にて北

海道札幌工業高等学校のタイトル「地域復興プロジェクト」を代表校に決定しました。



地域復興プロジェクト空地空き家を生かす4大計画



北海道札幌工業高校

事務局長

小野 孝



8月26～27日、ヘリテージマネージャー（以降HM）・フォローアップセミナー in 稚内が開催されました。

HM特別委員会の関川委員長をはじめ、北海道大学の角教授ほか道内から約10名のHMが参加し、初日は「旧瀬戸家住宅主屋」（通称：旧瀬戸邸）の見学から始まり、札幌市立大学の亀谷先生による講演会と懇親会、翌日は「旧海軍大湊通信隊稚内分遣隊幕別送信所」（通称赤レンガ通信所）の見学をして頂きました。

これらの建物は2003年に稚内市から依頼された「2003年稚内市歴史的建造物基礎調査業務」で調査した建物であり、当時建築学会の皆さんと共に調査測量、作図したことを思い出しました。

旧瀬戸邸は、機船底引き網漁業などを営んでいた瀬戸常蔵が、昭和27年に秋田大工の佐藤東作に依頼して設計・施工された木造2階建の住宅で、明治期から大正期にみられた旅館建築を彷彿させるデザイン、和と洋の折衷要素を持ち合わせる戦後の近代和風建築として評価され、平成19年に遺族から稚内市に寄贈。平成23年に修復され、平成24年から一般公開されており、平成25年6月には国の登録有形文化財に「旧瀬戸家住宅主屋」の名称で登録されました。

赤レンガ通信所は、昭和6年に北方の国土防衛をねらいとして建設され、昭和12年に海軍大湊通信隊稚内分遣隊に昇格。昭和16年に現存するレンガ造りの庁舎・隊舎等計3棟が完成しました。

太平洋戦争開戦時の暗号電報「新高山、登レー二〇八」は、この施設から単冠湾の機動部隊司令官南雲海軍中将に中継打電されました。また、昭和20年3月17日硫黄島最後の攻撃の決別電報を、小笠原兵団長栗林中将から涙とともに傍受するなど、最北の無線基地でありながら常に最前線と連絡をとりあった重要拠点基地でもありました。

昭和22年からは米軍が駐留し、昭和37年に撤退するまで地域住民との交流の記録があるなど戦前戦後を記憶する歴史的建造物です。

昭和48年に防衛庁管理となり、平成18年に保存を目的として稚内市が有償譲渡を受け、現在は支部

会員らが立上げた民間団体「稚内市歴史・まち研究会」が管理し地道に活動しているところですが、規模の大きさや立地が足枷となり三棟あるうち一番小さな棟のみボランティアによる修復がなされましたが、残る二棟は保存の目途が立っておりません。

HMの皆さんと見学しながら色々なアイデアを頂きました。崩れたレンガを売って資金としては？クラウドファンディングは？宿泊施設にしては？等々・・・

「旧瀬戸邸」のように保存だけでなく、活用方法も含めて考えていかなければなりませんね。



旧瀬戸邸



赤レンガ通信所

青年委員会

お仕事体験 in 紋別！

紋別支部青年部長

佐々木 誠



紋別支部青年委員会では、11月25日(土)に紋別市の児童館を借りて、将来の建築士を担うであろう子どもたちに向け、建築の魅力を知ってもらおうと「建築のお仕事体験 in 紋別」を開催しました。

本イベントは、本部青年委員会が毎年行っている「建築士の日」の周知イベントを模したもので、今回はその中から「ブロックでまちなみをつくってみよう」、「おりがみでたてものをつくってみよう」、「パズルでお部屋をかんがえよう」の3つのお仕事体験と「紙で人を支えられるのか」のライブイベントを行いました。各お仕事体験に参加した子どもたちには、お給料として会場内に設置している駄菓子屋で使用できるイベント通貨「チーク」を手渡し、お仕事の達成感を体験してもらいました。また、お仕事体験を1つ終了するごとにスタンプを押し、5つのスタンプを集めた子どもには、記念として「こども建築士免許証明書」の発行を行いました。



ブロックで「まちなみ」をつくってみよう



イベント会場 全景

「ブロックでまちなみをつくってみよう」では、子どもたちは大量の組み立てブロックのなかから気に入ったものを集め、とにかく大きな建物をつくる子もいれば、色を選びデザインを重視した建物をつくる子など、個性的な建物が多数完成しました。

完成した建物は、まちなみステージに自由に配置をしてもらい、子どもたちで作り上げたすてきな「まちなみ」ができました。

また、一部では父母の方々も子どもたちと一緒に becoming ブロック建築に夢中となっている様子も見られました。

「おりがみでたてものをつくってみよう」では、折り紙の建物の絵に自由に着色してから、定規とカッターを使い切り抜き、折り目をつけて立体的な建物をつくってもらいました。

カッターを使った細かい作業が多く、子どもたちの慎重に取り組んでいる姿が見られました。一つ二つと作成しているうちに要領をつかんできた子どもは難しい建物にも挑んでいきました。



おりがみで「たてもの」をつくってみよう

「パズルでお部屋をかんがえよう」では、敷地の絵の中に好きな床材や好きな色の家具を選んで貼り付け、自分が住みたいと思う間取りを自由に考えてもらいました。

使用する材料は付箋と同様の仕様のもののでできており、床材や家具は自由に剥がせるものなので、子どもたちは何度も貼ったり剥がしたりを繰り返し、納得がいく間取りができるまで試行錯誤していました。それにより完成したお部屋は、機能性を重視した現実性の高いものから大人では考え付かない芸術性に富んだデザインなものまで、多種多様な作品ができて上がりました。



パズルで「お部屋」をかんがえよう

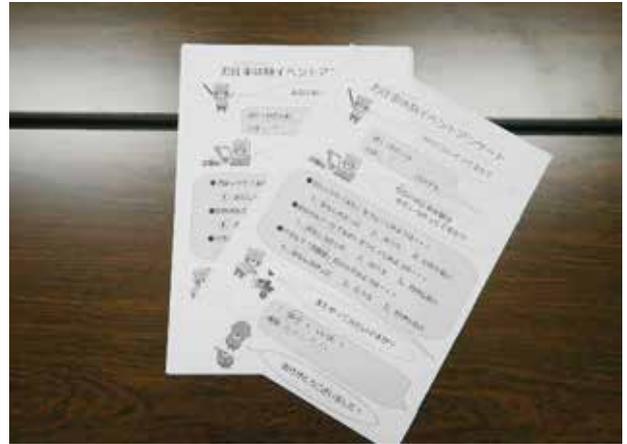
「紙で人を支えられるか？」は、紙で柱と壁を作り、配置を考えます。その上に90cm角のクリアパネルを重ね、子ども達が何人乗れるか実験しました。2チームに分かれた子ども達は思い思いの柱、壁を作成し、どのように配置したら人がたくさん乗れるか競い合いました。15人もの子どもが乗れる構造体を作成したチームもあり、潰れるときには大きな歓声があがりました。



紙で人を支えられるか？

すべてのお仕事体験が終わった子どもたちに簡単なアンケートに答えてもらいました。集計した結果、「おもしろかった」と答えてくれた子どもが圧倒的に多く、全員がまたやってみたくて答えてくれました。また、アンケートの中には父母の方が書いてく

れたものもあり、「息子がすごく楽しそうにお仕事をしていました。また次回も開催してほしい。」との回答をいただき、今回のイベントの成功を実感できました。



イベントアンケート

紋別支部でのお仕事体験イベント開催は今回が初めての試みでした。実行に当たって使用した組み立てブロックやスタンプをお貸しいただいた本部青年委員を始め、児童館職員の方や周知に協力していただいた学校関係者の方の協力のおかげで大盛況のうちにイベントを終えることができました。上記でも述べたとおり、今回のイベントの大部分は本部青年委員会や各支部で実施されているお仕事体験内容を模して実施いたしました。しかし、次回のお仕事体験イベントは紋別支部独自の内容で実施し、その活動で得られた経験や情報を各支部に向けて発信していきたいと思ひます。



免許証 記念撮影



CPD認定プログラム(12月認定)

◆建設工事に伴う労働災害・地下埋設物事故防止講習会

《日程及び会場》 2月21日(水) 13:30~17:00

北海道建設会館(札幌市)

《単位数》 3単位

《問合せ先》 (一社)日本建設業連合会北海道支部

TEL 011-261-6245

◆平成29年度きた住まいる技術講習会

《日程及び会場》 1月17日(水) 13:00~16:00

網走市民会館(網走市)他6会場

《単位数》 3単位

《上記講習会問合せ先》

(一財)北海道建築指導センター

TEL 011-241-1893

◆第61回(平成29年度)北海道開発技術研究発表会

《日程及び会場》 2月20日(火) 9:25~10:20

北海道開発局研修センター(札幌市)

《単位数》 1単位

《問合せ先》 北海道開発局

TEL 011-709-2311(内5782)

◆平成29年度「構造計算適合判定に係る

建築確認手続き円滑化のための講習会(旭川)

《日程及び会場》 1月11日(木) 13:15~16:20

北海道立総合研究機構建築研究本部(旭川)

《単位数》 3単位

《問合せ先》 北方建築総合研究所構造計算適合判定センター

TEL 011-204-5362

道士会の動き

道本部の主な会議報告(12月)

◆第4回 理事会

《開催日》 12月1日(金)

- 《議題》
- 1) 平成29年一般会計収支予算の補正及び流用(案)について
 - 2) 平成29年一般会計事業報告(10月末)及び収支決算見込について
 - 3) 平成29年特別会計事業報告(10月末)及び収支決算見込について
 - 4) 平成29年全国大会特別会計事業報告(10月末)及び収支予算の流用・収支決算見込について
 - 5) 第42回全道大会(後志大会)事業報告及び収支決算(案)について
 - 6) 第43回全道大会(士別大会)事業計画及び収支予算(案)について
 - 7) 第44回全道大会開催地(案)について
 - 8) 支部財政調整積立金の取崩(案)について
 - 9) 平成30年一般会計事業計画及び収支予算(案)について
 - 10) 平成30年特別会計事業計画及び収支予算(案)について

編集後記

明けましておめでとうございます。昨年は倶知安町・ニセコ町にて第42回全道大会が盛会に開催されました。今回もその様子を号外にてご紹介させて頂きましたが、平成30年は、天塩川を有する水と緑豊かな田園都市、士別市にて開催されます。もちろん今回も号外をお届けしますのでお楽しみに。

今年は平昌オリンピックにFIFAワールドカップロシア大会、加えて大谷君のMLBデビューに日ハムの清宮君と話題に尽きませんが、私たち委員一同も、旬な情報の発信に一層努めてまいりますのでどうぞよろしくお願いたします。

新年が、皆様にとって平穏で幸せな1年となりますよう心からお祈り申し上げます。 常務理事 久島 正嗣

- 11) 平成30年全国大会特別会計事業計画及び収支予算(案)について
- 12) 定款第6条に基づく会員の入会承認(案)について

◆第2回 情報委員会

《開催日》 12月2日(土)

- 《議題》
- 1) 平成29年決算及び事業報告について
 - 2) 平成30年予算及び事業計画について
 - 3) 会誌の年間スケジュールについて
 - 4) 号外発行について
 - 5) その他

◆第2回 まちづくり委員会

《開催日》 12月16日(土)

- 《議題》
- 1) 平成29年事業報告、平成30年事業計画・予算案について
 - 2) 高校生建築デザインコンクールについて
 - 3) 高校生「建築甲子園」について
 - 4) 連合会まちづくり委員会について
 - 5) まちづくり部会連絡協議会について
 - 6) まちづくりフォーラムについて
 - 7) その他

関係機関等会議参加予定(1月)

- 18日(木) 日本建築士会連合会正副会長会議 高野会長出席
- 19日(金) 日本建築士会連合会理事会 高野会長・吉木副会長出席

道本部の主な行事予定(1月)

◆第1回 青年委員会

平成30年1月13日(土)(予定)

1月開催講習会のお知らせ

・応急危険度判定士認定講習会

1月19日(金) 釧路市

1月25日(木) 江差町

平成30年(一社)北海道建築士会会員作品の募集

みなさんの手がけた建築作品を広くアピールしてみませんか。応募作品のすべては、本会ホームページに掲載します。また、その中から4点程度を選考し9月発刊「北海道建築士No.253」に掲載します。多くの会員の応募をお待ちしています。

※応募要項など詳細は、3月発刊「北海道建築士No.247」に掲載します。また北海道建築士会HP(<http://www.h-ab.com/>)では、第1回~6回の作品も見ることができます。

情報委員会委員長/斎藤 勝哉

副委員長/早川 陽子・森 勝利・前田 繁

委員/熊谷 智・柏倉 晶憲

村山 賢司・片岡 哲二

北海道建築士 No.245号

印刷 平成29年12月/発行 平成30年1月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会

〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地 大五ビル

電話 (011)251-6076番

URL <http://www.h-ab.com/>

印刷 株式会社 正文舎

〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目

電話 (011)811-7151番